福祉文化通信

2015.7.31 Vol. 77

～ Well-being への道～

●発行者／広報委員会
稲田 泰紀・関矢 秀幸
●制　作／長瀬 さやか

日本福祉文化学会事務局　〒165-0026 東京都中野区新井 2-12-10 芸術教育研究所内　Tel/Fax：03-5942-8510　E-mail:fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp

震災時神戸

KOBE
神戸
でお会いしましょう！

第26回 日本福祉文化学会全国大会 神戸大会

大会テーマ：地域文化から福祉をみる ～大震災後20年の神戸から～

2015年10月24日（土）「兵庫県立美術館」・「人と防災未来センター」
10月25日（日）「兵庫県福祉センター」

実行委員長 小坂 享子

阪神・淡路大震災を経験してから今年で20年になります。その間我々は、悲しみや憤りを共有しつつ新たな絆やしくみをつくり、地域の文化を培ってきました。言い換えれば、災害に立ち向かうことで、新しいしくみやつながりを創造することができたように思います。このような思いを踏まえて、本大会では、阪神・淡路大震災からの復興にスポットをあてます。しかし、そこに留まらず、東日本大震災をはじめとする大災害に繋げることを試みました。

そのために、阪神・淡路大震災での救援活動をしたのち国内外で災害支援をしておられる方や、大震災を経験していない世代に防災教育をしておられる方等をシンポジストや講演者にお招きしました。さらには、「人と防災未来センター」への見学もプログラムに盛り込んでいます。

そして、交流分科会では、多様なテーマを設けました。いずれも、実践の現場で躍動感ある活動をしておられる方々によるものです。

本大会では、1日目と2日目で会場をかえました。1日目は、海を感じる HAT 神戸エリアにある「兵庫県立美術館」と「人と防災未来センター」、2日目は、六甲山に近い「兵庫県福祉センター」です。両日とも福祉の裾野を広げつつ、福祉実践を豊かなものにするために、活発な研究発表、実践報告、討論を展開していきたいと思います。皆様の参加を心よりお待ちしております。

大会プログラム（予定）

第1日目：10月24日（土）
【「兵庫県立美術館」・「人と防災未来センター」にて】
12:30　開会セレモニー「兵庫県立美術館」
12:45　特別講演
「地域でつくるぼうさい文化」ー『ぼうさい甲子園』の取り組みからー
NPO法人さくらネット 河田のどか
14:00　シンポジウム「地域文化から福祉をみるー大震災後 20 年の神戸からー」
16:00　「人と防災未来センター」見学
18:00　懇親会
「人と防災未来センター」1 階「新上海」

第2日目：10月25日（日）
【兵庫県福祉センターにて】
9:00　総会
10:00　研究発表
13:00　交流分科会・委員会企画
15:00　特別講演「あの時高校生だった私が落語家に そしてー席 」桂福丸
16:15　閉会セレモニー

人と防災未来センター

国際交流委員会担当理事――岡村 ヒロ子

国際交流委員会の事業は前担当委員が取り組んだ「留学生との交流」を継続していく。さらに国内・国外の大学・諸機関から国際交流に関する問い合わせ等の窓口として機能を担っていく。また、課題としては、国際交流委員会の学会における位置づけ、学会が国際交流委員会に期待することを明確にするために意向調査を計画している。

過去、他国との交流事業としてモンゴルツアー・韓国での現場セミナー等を実施しているが、かなり大掛かりな事業であり、国際交流委員会を超えた協力体制が必須である。国際交流に興味関心をおもちの会員の方々、経験のある会員の方々は、ぜひ、ご意見・ご提案を寄せていただきたい。

留学生とともに
近江八幡での現場セミナーにて

広報委員会担当理事――稲田 泰紀

福祉文化通信のリニューアルに皆さまお気づきでしょうか？今号からフルカラー印刷で皆さんにドキドキワクワクをお届けさせていただきます。

広報委員会としては、『福祉文化通信』（年３回発行）、『学会ホームページ』（随時更新）など学会の広報活動を進めています。学会の活動紹介や現場セミナーの様子などを皆さまにお伝えしています。今年度は旬な情報をお届けするべく、Facebook などの SNS ツールの活用も視野に効果的な広報・周知を模索しています。

とは言いつつも、温かみのある広報手段としての『クチコミ』も大切な情報ツールの一つだと考えています。セミナーや各種研修会における情報提供などに会員さんからもご協力頂ければ幸いです。

学会ホームページから『学会パンフレット』もダウンロードできます。

学会ホームページ　http://www.fukushibunka.net/

文化の交差点

文化の交差点、3年目は諸外国の福祉や文化に精通されています評議員の大澤澄男さんに3回コースで執筆いただくことになりました。どうぞお楽しみに。

日本・デンマーク生活研究所とも交流・連帯しようではないか

デンマーク ボーゲンセでの生活から 福祉文化を考える――①

大澤 澄男（日本福祉文化学会評議員）

NPO法人日本・デンマーク生活研究所の２０１５通常総会が５月16日、TKP東京駅丸の内会議室で開かれ出席した。Nordfyns Højskole（その前身を千葉忠夫氏が創設）で社会福祉を研修、生活体験をした関係者中心で作られ福祉課題を研究・実践しようとする集まりである。その志は高く研修会、広報活動等を行い、わが国を豊かで住みよい生活者主権の国へと再建しようとしているが具体的で力強い活動にはなっていない。

昨年９月には京都の同志社大学他で「女性と若者の社会進出・政治参加」をテーマに市会議員一期のあと大学院で政治学を学び国会議員をめざす25歳の女性 Signe sørensen さんと、ボーゲンセ高校生徒会長を務め６月に卒業したばかりで19歳の現職市議会議員 Lasse Pedersen さんを迎えた。彼の発言「18歳から25歳までの若者が成人全体の20％を占めているのにその年齢の議員は５％だけなのは若者の意見が政治に反映されないと立候補し当選した。」は重く響いた。18歳選挙年齢は世界の趨勢（すうせい）で、わが国でも既に衆議院を通過し今国会で成立の見込みだが、その前提に現代史と選挙への教育が必要となる。付帯決議となって欲しい。

日本の福祉文化がこの国を市民主権で豊かな国づくりへと、理論と実践がつながって具体化していくためにも、日本福祉文化学会と日本・デンマーク生活研究所の交流・連帯をめざしてはどうだろうか。Welfare から Well being（健幸）、一部の人のためから全ての人への当たり前の仕組みと実践を力強く進めることを考えたいと思う。２０１５研修塾が９月25日～27日、千葉市内でデンマークからも参加して開催予定である。

（次回は２０１５年12月の発行予定です。）

会員情報

●2015年６月15日までに、ご入会された方のお名前と所属ブロックをお知らせ致します。（敬称略）
北村育子（関西）、高橋克彦（関西）、田中賀奈子（関西）、松尾まどか（関西）、村橋功（関西）、清水孝次（北陸）、中島純（北陸）

●2015年６月15日現在
〈会員数〉
個人会員 313 名
団体会員 ８団体

事務局より

2015年度 第一回理事会終了

５月16日（土）午後１時30分から立教大学において、新役員体制になり始めての理事会が開催された。

前年度予会決算、第26回全国大会神戸大会内容、各ブロック、委員会活動計画などが審議された。ほとんどの理事が出席し、オブザーバー参加として、顧問、評議員、監事の方にも多数ご参加いただき、活発に議論がなされた。

『第６期役員の顔ぶれ』
みなさんにワクワクドキドキを更に届けられるように進めていきます。
ご理解とご参加よろしくお願いします。

谷折り

2015年度
日本福祉
文化学会

各ブロック・委員会活動計画を紹介します。

北海道ブロック担当理事――今野 道裕

私自身は保育系の短期大学部で児童文化（人形劇）・図工造形分野を教えています。普段直接的には「福祉」には関わっていません。

現在、大学のある名寄市の駅前商店街をフィールドに「あそびの広場」という取り組みを 3 年ほど続けています。折り紙やけん玉、絵本の読み聞かせ等学生が取り組める「あそび」を商店街の空き店舗を活用しながら、子どもたちに楽しんでもらおうというものです。

この取り組みには市の社会福祉協議会や市内の福祉施設の協力・参加も得ることが出来、高齢者・障がいのある方の参加も生まれてきました。文化をつくる側から福祉を考えていきたいと思っています。

今年も 9 月 12 日（土）に実施すべく、少しずつ準備中です。

「あそびの広場に寄っといで〜♪」

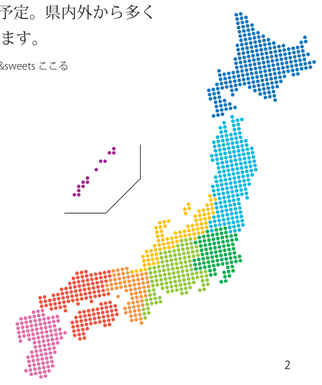
北陸ブロック担当理事――石井 パークマン 麻子

北陸ブロック現場セミナー開催のお知らせ

11 月 21 日（土）夕方から 22 日（日）午前中の日程で、福井県鯖江市で現場セミナーを開催します。「障がいのある人が生き生きと働く職場とは―チャレンジトの経験から考える―(仮題)」をテーマとし、会場は、昨年 12 月にオープンした鯖江駅舎 2 階の “えきライブラリー” 内 “café&sweets こころ” です。1 日目の 18 時 30 分からはシンポジウムを行い、“ＮＰＯ法人小さな種・こころ “の活動の展開について知っていただくとともに、ここで働くチャレンジト（発達障害や知的障害、精神障害等のある当事者たち）の経験と意見を出発点に、やりがいや課題について参加者と一緒に考え合っていきたいと思います。

2 日目には朝食を “café&sweets こころ” でとっていただき、ＮＰＯ法人理事長によるミニ・グリーンツーリズムと鯖江の伝統工芸探訪を企画しました。13 時頃に鯖江駅で解散予定。県内外から多くの方のご参加をお待ちしています。

café&sweets こころ



関東ブロック担当理事――梅津 迪子

第３回クロスブロックセミナー実践・研究交流会を開催しました。

テーマ：「福祉現場で求められる職員の質とは何か？
―虐待事例を通して現場職員が語る―」
話題提供者：西田京子氏（仮名）
日時：2015 年 3 月 14 日（土）13:00 〜 16:00
場所：立教大学 16 号館 第一会議室　参加者：30 名

第 2 回セミナーで話題になった施設内の虐待事例について、「虐待を通して見えてきたもの」を公益通報者の西田（仮名）さんが話題を提供してくれました。このセミナー案内は東京・朝日・毎日新聞に記載され、新聞を見ての参加者、学会員、毎回のセミナー参加者が各 1/3 でしたが、市議会議員 2 名、新聞記者の参加もあり、各立場からさまざまな意見交換が行われました。本事例は当時裁判中で、施設理事長に対し都からの実地検査結果をはじめ改善指導や改善報告（指定一部効力停止）がされましたが、理事長は結果を認めず第三者評価委員を逆訴訟していました。その都度、結果は新聞に掲載されましたが、5 月に施設理事長が訴訟を断念し和解で終止符に。理事長はじめ役員は刷新となりましたが、今後の行方を注目したいと思います。同時に千葉県の事例もとりあげ、障害者権利条約第 1 条、障害者基本法、虐待防止法を中心に責任者や職員の福祉に対する人権擁護意識や職業倫理の有無、公益通報者保護法、各市町村の人権擁護窓口の機能、メディアの在り方などの視点から活発な意見交流がなされました。

中・四国ブロック担当理事――松原 徹

かつて第六高等学校があり、教育県といわれた我が郷土岡山。現在では学力はワースト●位。少年非行、不登校、引きこもり、少年犯罪など、青少年に関する問題数もワーストであるとか。また、経済においては駅前に大型店舗イオンの進出により、戦後岡山の発展を支えてきた商店街の衰退など街の形が大きく変わっている。

こんな時代だからこそ「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」が如く、教育をベースに倹約、新旧の産業振興を行うことで備中松山藩の復興を成し遂げた郷土の偉人・山田方谷に学ぼうという動きがある。他にも中・四国には「歴史に学ぶ」べき素材が有り余る。それに対し、福祉の研究者及び実践者、歴史研究者、ミュージシャン…等、様々なジャンルの人々を巻き込み、福祉文化の渦を広げ、夢と希望のある地域、日本創生の一助を成したいと思っている。

主催イベント「歌で学ぼう山田方谷」「おかやま明日ゼミ」

方谷祭り in 大佐の様子

中部・東海ブロック担当理事――坂本 道子

1）「静岡福祉文化を考える会」の結成 20 周年の活動を支援する：20 年前の学会の現場セミナーが元になり結成された本会。会員の平田厚氏が会長をしています。地元の「生活会議」を基盤に「福祉文化実践」をおこなっています。すでに 5 月から毎月、公開型研修会を開催し、毎回 40 名程度の人が集まっています。

2）中部・東海ブロック会員ネットワークを形成する：メーリングリストによる、メールでのネットワークを組織化する。

3）中部・東海ブロックの会員の活動内容や学会へ期待することなどを調査する。

4）中部・東海地方の独自の福祉文化を探求する。

これらの活動を通して、会員の交流を図り、会員の意向や動向を探り、地域に密着した福祉文化の探求と創造をはかってまいります。

今後ともご支援をお願いいたします。

九州ブロック担当理事――日比野 正己

九州ブロック活動の３つの方針

活動の基本は一番ヶ瀬初代会長の
ご遺志を受け継ぎ実践していく。

①福祉現場の実践の学問化（そして実践の相乗）
担当：日比野理事
□日本福祉文化学会の目的である「福祉文化学」の創造に寄与。
□全国大会の研究発表論文の学術レベル（学問作法）と発表法の向上に貢献。
□20 回大会長崎大会の成果の継承と発展（一番ヶ瀬福祉文化学、ＨＭ福祉文化学他）。
□モデル実践として「志立まごのて福祉文化大学（仮）」。2014 年 12 月に開校。その成果を全国大会で継続発表。

②九州ブロック交流大会開催　担当：志賀評議員
□長崎・大分・熊本他の福祉施設理事長らの交流会の開催。
□2015 年 11 月 15 日、ほかにわ共和国 10 周年記念として開催。以後、他県で予定。

③長崎純心福祉文化研究会メンバーへの学会参加奨励　担当：永山副会長
□永山副会長は研究会代表なので学会入会などを奨励。
□『長崎純心福祉文化研究』第 12 号（2015 年 5 月）の「巻頭言」（日比野）で学会への参加・発表等を提起。

佐々木理事（2015 年 4 月、長崎国際大学赴任）とも協力して進めていく。

研究委員会担当理事――佐藤 嗣道

「持ち寄りゼミ」がスタート

研究委員会では、これまで「よもやまゼミ」を開いてきましたが、その成果が「福祉文化研究」誌（Vol.24）にまとまりましたので、馬場新会長（前研究委員会理事）からの引き継ぎを受けて、新たに「持ち寄りゼミ」を始めることになりました。薗田顧問のご指導のもと、メンバーが様々なテーマを持ち寄り、皆で検討することを予定しています。理論的なことよりも、福祉実践に光をあて、それを文化の眼鏡でどのように捉えるかを考えるのも一つですし、福祉に関する文化作品（小説、映画、ドラマ、演劇、音楽、アートなど）を取り上げるのも面白いと思います。そして、検討の成果を「福祉文化研究」誌上で公表できれば素晴らしい。できれば毎月、少なくとも 2 カ月に 1 回程度、集まりたいと思います。これまでのメンバーはもちろん、これまで参加されていなかった皆様のご参加をお待ちしております。興味のある方は事務局までご連絡ください。

災害と福祉文化委員会担当理事――藤原 一秀

今年の全国大会は震災から 20 年目の神戸で開催されます。災害と福祉文化委員会として、これまでの活動を振り返り、これから何をすればいいかを考える最良の年度です。

関西にいるのでなおさらかも知れませんが、東北の震災から 4 年経ち、被災地支援が様々な理由で減少していると感じます。東北支援については、これまでの気仙沼大島の「きらきらカアチャンズ」「キルト教室」「ゆず園再開お手伝い」を中心に継続して活動を行います。

またほとんど報じられていませんが、昨年 7 月末の豪雨による兵庫県丹波地方の災害は、1 年経った現在も泥かきや田畑の修復のボランティアが活動を続けています。そして復興に当たってコミュニティー作りやエネルギー自給についての新しい取り組みが行われています。災害後に何が変わったのかを記録し、今後も継続して支援するには何が必要かを考え、時が経つにつれ変化する現地に合わせた支援を行っていきます。

キルトを囲んで

編集委員会担当理事――月田 みづえ

1）『福祉文化研究』の発行方法を変えて、Web 化します。

〈いつから？〉2015 年度発行の予定の『福祉文化研究第 25 号』までは、従来通りの冊子体です。その次の第 26 号からはWeb 上でアップすることになります。

〈どのように？〉

①原則として、年 1 回、3 月頃にアップします。

②Web 化したものは、会員は全文閲覧可能とし、非会員は要旨のみが閲覧可能となる予定です。

③冊子体を少数部数のみ印刷し、掲載者、国会図書館などに送るとともに、希望者には先着順で販売をします。（会員には、非会員より安価でおわけする予定ですが、価格は未定です。）

2）『福祉文化実践報告集』を休刊します。ひきつづき、福祉文化実践を『福祉文化研究』の「現場実践論」に、投稿をしていただきたいと思います。査読（1 名）が入ります。全国大会で発表されたもののなかから、あるいは各地方ブロックでの推薦などを含めて、奮って投稿のお願いを申し上げます。

谷折り